



「海洋プラスチックごみ問題を考える！」

～私たちにできること～第一弾」

【開催日時】2018年9月3日(月)15:00～17:45 【会場】食品衛生センター講堂

【参加者】51名

1. レクチャー 民間団体・行政・事業者団体の三者から現状を解説いただきました

(1) 美しい海をこどもたちへ ～海洋プラスチックごみ問題を考える～

／(一社)JEAN 事務局長 小島あずさ氏

- ・海岸のクリーンアップ活動を民間団体として続けている。現状をぜひ知ってほしい。
- ・市街地等の散乱ごみもやがて海に流れ着く。特にプラスチックごみは、分解されずずっと残る、拾えない場所にも漂着する、国や地域を超える、誤飲・絡まり・光合成阻害等動植物への影響が大きいなどの問題がある。
- ・近年はマイクロプラスチック（5ミリ以下のサイズで回収不可）の問題も浮上。小さな生き物も摂取してしまう、有害化学物質を吸着する性質がある、など影響が大きい。使わないことが必要である。
- ・プラスチックが開発されて100年、使い捨て文化が当たり前になって50年、消費者の意識改革も必要である。当事者意識をもってほしい。
- ・今あるごみの回収活動（拾えるうちに、破片化する前に、海に再流出する前に）、増やさないための環境教育と、プラスチックの使い捨てをしないなど行動の変化が重要である。

(2) 海洋ごみ問題への取組 ー環境省 水・大気環境局 海洋環境室 矢野 克典氏

- ・陸上から海洋に流出したプラスチックごみの発生量ランキングでは、東・東南アジアが上位をしめる。
- ・2018年6月に海外漂着物処理推進法が改正され、漂流ごみも対象となった。マイクロプラスチック対策も規定された。
- ・同月に第4次循環型社会形成推進基本計画も閣議決定され、プラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略を策定した。
- ・海岸漂着物等地域対策推進事業による地方自治体への財政支援も進めている。
- ・海洋ごみ調査（H28年度）では全国10地点で漂着ごみのモニタリング調査を実施している。人工物の容積ベースでは上位は漁具、プラスチック、発泡スチロールが占めた。マイクロプラスチック採取調査では日本周辺の沖合海域で全体的に分布していた。
- ・国際連携も進めており、マイクロプラスチックのモニタリング手法の標準化及び調和化については日本が主導している。
- ・持続可能な開発目標（SDGs）のターゲットの一つに、海洋汚染の防止、大幅な削減が掲げられている。

(3) 清涼飲料業界の「環境課題」への取組みと散乱対策をはじめとする海洋プラスチック問題への対応 ー(一社)全国清涼飲料連合会 アドバイザー 瀧花 巧一氏

- ・飲料容器については、ライフサイクルの全ての段階で環境への配慮に努めることをモッ

トーに、環境配慮設計を徹底している。

- ・PET ボトルの回収率は92%、リサイクル率は84%となっている。回収率が50%に満たない海外の国ではデポジット方式で回収率を上げる工夫をしている国もある。
- ・リサイクルの手法は自治体により異なり、処理場の機能が向上している現在は、燃やす方がよいという価値観もある。高品質な資源であり、リサイクルできるものはリサイクルすることを啓発していきたい。

2. 質疑応答・意見交換

阿南理事長のコーディネートで、講師と参加者が活発な意見交換を繰り広げました



- ペットボトルとプラスチックを混同している。きれいに洗って回収することでリサイクルが成り立つ。消費者の協力が必要である。
- 環境省には強いリーダーシップを発揮してほしい。リサイクルとともに、ごみの削減。海外のある自治体はもとより内陸の自治体も含めた活動を。
- プラスチックストローが問題視されているが、紙製品に代えていくことが本当によいのか。何が効果につながるのかしっかり考えたい。
- ストローだけの問題ではないが、広まることで、消費者が使い捨て製品について自分がどうすればよいのか考える一歩になる。
- 消費者啓発の面では、環境省と消費者庁がタッグを組むべきではないか。身近な問題として取り上げてほしい。
- マイクロプラスチックが重要な課題になっていることを初めて知った。使用しないことが唯一の対策なのであれば、関連業界に徹底すべきである。
- 地道な活動をしている団体に対して、国がもっと援助する仕組みが必要である。活動資金などぜひ考えてほしい。

3. まとめ

身近な問題でありながら、日常生活では目にしない海洋ごみの現況について、民間・行政・事業者の立場からその取り組みを丁寧に解説いただき、状況を把握することができた。また、便利に利用しているプラスチックの最後の姿を目の当たりにし、問題の重さをひしひしと感じる機会となった。参加者からも、「個人としてできることから取り組みたい」「自分の所属する組織へ情報共有して活動の輪を広げたい」「一般消費者への情報提供や啓発活動を進めていきたい」「まずは回収活動に参加したい」等の声が相次いで寄せられた。次回は具体的な取組手法について検討する機会となるとよいと思う。

アンケート回答一覧 29名の方から回答をいただきました。ありがとうございました！

感想、自分や家庭・会社などで「できること！」「やってみたいこと！」

- | | |
|---|--|
| 1 | 今まで以上に責任もって分別ゴミを徹底する。
物を大切に使い捨てにしないこと。
先ず地域の活動に参加していきたい。
本日の内容を部内共有していきます。ストローだけにならないよう、継続的にできるよう進めていければと思います。
非常にショッキングな内容でした。子ども・孫達のために自らできることを確実に実施していきます。 |
| 2 | 普段のくらしに深くねざしているプラスチック、自分が関わったプラスチックのゆくえをちゃんと意識すること、責任を持つこと。
何十年もかけて海にたまったプラゴミをなくすのは非常に困難だけど、無関係な人はいないのだから、もっともっと広報していくべきだし、私もまわりの人に伝えたい。
機会があれば海の清掃に参加したい。 |
| 3 | リデュース(Reduce)発生抑制に心がける(個人的には)。
団体としては、現状を知らせて、イベントなどで5R(3R+リペア Repair+リフューズ Refuse)を進める。行政をいかに巻き込むかが重要。しかし人員と予算が減らされていて、なかなか大変のようです。 |
| 4 | この問題の現状、国の動きが理解できました。また、全国清涼飲料連合会の取り組みは大変しっかりされていると感じました。引き続き勉強させていただきます。 |
| 5 | 大変勉強になりました。特に小島様のお話は考えさせられました。この問題課題に関しては真剣に考えていきたいと思います。
消費者啓発が重要です。事業者・行政・消費者の連携も重要だと改めて思いました。 |
| 6 | 「プラスチックゴミを減らす」という意識を大前提に、プラスチックを使わない、他で代用する行動を実際に行うという強い意識が大事。今日より明日、一つでもその行動を多くしていきたい。 |
| 7 | 飲料業界としてリサイクル、ゴミ問題は大変重要な課題の一つ。プラスチックの海洋ごみが問題となるなか、プラスチック使用の削減を飲料メーカー、包材メーカー含め考えていかなければならないと感じました。ただリサイクルという意味でプラスチックだけを単純に考えるだけでよいのかというところにも共感しました。洗顔料などにもプラスチックが入っていることを知らなかったのととても勉強になりました。 |
| 8 | 飲料業界に身を置く者として、本日のセミナーは大変勉強になりました。
もちろん全般的には理解していると考えていますが、小島さんから画像や実散乱物を見せられたり、矢野さんから政策的な取組を紹介されたり、そして瀧花さんから私どもの業界が取り組むべき課題を述べていただき、我々がやるべき役割が多々あることを認識しました。
教育活動にも参加しているので、もっと教育現場にこの問題を落とし込んでいきたいと考えています。
本問題を課題に今年の横浜市のスピーチコンテストに愚息が学校代表として選出され予選会に出場しました。 |
| 9 | 一部だけを見るのではなく全体を考えて行動すべきだと思いました。知らない判断を間違えるので、正しい情報を伝えることが大切だと感じました。 |

10	多視点での有識の方々のお話で興味が増した。小さな分別やプラスチック製品への心遣いが必要だと再認識しました。
11	今日参加したのは、取引先の外資系企業からの検討事案でした。私のいる畜産業界は、全くと言っていいほど取り組みのできていない業界です。業界あげて活動されている全国清涼飲料連合会やJEANの活動を社内検討し、賛同社を増やしていきたいと思います。
12	私の所属している鶏卵業界では、容器にプラスチックが使われていますが、飲料用PETボトルなどとは異なり屋外で使用される機会が少ないためか、業界内でのリサイクルの話などはあまり大きく出てきません。しかし、プラスチックに代わる新素材の容器は、今後必ず必要になると考えられます。パック屋と話をする際にはぜひ今回の勉強会の話伝えたいと思います。家庭においてはゴミの分別をしっかりとやっているつもりですが、今後も続けるとともに、子どもにもリサイクルや分別の大切さを教えていきたいと思います。
13	事業所でPETボトル、缶、びんと分別はしていますが、PETボトルはもう一段進めてラベルをはがして水洗いする。缶、びんも水洗いして捨てるように啓発したいと思います。個人としては行っていますが、周りに拡げたいと思います。
14	所属する消費者団体において昨年度より表示問題を含め環境、食品ロス問題を取り上げています。来年度の「食育全国大会」開催県にむけて、啓発及び勉強の最中です。本年度は海洋汚染を重点課題として各団体が動き始めています。「できること」として今後も啓発をすすめていきたいです。
15	海洋プラスチックの回収について、包装資材を工夫するという根本をたつことはさることながら、放出されてしまっているプラスチックに対して企業が出来ることを知りたい。
16	自身でできること: 今回の内容を聞いてまずは自身の家族、子どもからプラスチックも含めたゴミの分別をきちんと伝える。また自身のプライベートの関係者に伝えることは有効である。 会社でできること: プラスチックは自然界には帰らないため、会社としては廃棄物の発生抑制をして、リサイクル率を上げる。そのためには分別はもちろん汚れている場合には洗浄する。常時実施していることが大事だと思います。 会社でやってみたいこと: 個人的にはプラスチックを利用しない。紙容器のデザイン改良など面白いと思います。プラを使用する時は、マイクロプラを発生させないプラを優先して使用したいです。
17	まず現状を正しくすることが大事だと思います。大手外食チェーン等がプラスチックストロー廃止の決定を公表していますが、そうした行動はパフォーマンスでしかなく、本質的な解決にはならないと思います。 消費者は利便性に目を奪われて廃棄・回収・再生への責任を果たしてこなかったことに胸が痛みます。実態を知り、課題を共有し、連携、協働で対策を進めていくことが求められていると思います。不便益を許容するということに、解決の方向性を探すべきではと思います。
18	ポイ捨てはしない。ゴミは持ち帰りリサイクルに出す。 子どもにも今日の資料を見せて、亀の胃の中を知ってほしいと思いました。 子どもが小学生だった頃に図書ボランティアをしていました。その時に、紙芝居で食品ロスをテーマに聴いてもらいました。この海洋プラスチック問題も取り上げてみては？と思いました。小さな子供たちにもわかりやすい絵で紙芝居をつくってみてはいかがでしょう？ 図書ボランティアたちは、このような問題への理解協力に対し、積極的になってくれると思います。
19	買い物袋を常時持ち歩きます！ プラスチックのストローは受け取りません！

20	<p>海洋汚染の実態を伺い大変驚いています。通常の循環系のサイクルを除く不法な廃棄がこれほど海洋汚染を引き起こす。原因は何なのか今後ご教示ください。</p> <p>バイオプラスチックや特別な素材(アメリカでは海藻で作るストローもできたそうです)が今後どう普及していくのか見守っていきたいです。</p>
21	<p>知らないことも多く大変勉強になりました。状況について組織内で共有し自分たちの組織でできることを考えてみたいと思います。</p>
22	<p>海洋プラスチックを減らすためには、そもそも何がどこからやってきているのかその原因を確定させる必要があります。</p> <p>ストローのように発生を抑制する話もあるが、容器包装はおそらく減少することは無いのではと感じる。</p> <p>影響の大きいプラの種類ごとに対処法を考えることが重要です。</p>
23	<p>先ず新聞報道等によく目にする「マイクロプラスチック」について、団体・官庁・企業それぞれの立場から現状や背景について伺えたので大変勉強になりました。そして、その利便性から国民一人一人が向き合うべき問題であり、絶対的なごみの減量やライフスタイルの見直しも含めて考えなくてはいけないと感じました。所属する団体としても議論のきっかけづくりに取り組むとともに、個人としても小島さんがおっしゃっていたように、店内飲食時にはストローを使用しないなど行動を変えていきたいと思います。</p>
24	<p>生協組合員に向けた勉強会、一般消費者に向けた啓発活動</p> <p>できれば少しでも不要なプラスチックをなくす取り組みを改めてやってみたい。不要な容器包装しないのが生協の専売特許だったはずですが、もう少し努力できるのではないかと思う商品が多くなってきているので。</p>
25	<p>コーヒESHOPでまずはプラカップ・ストローを断る！</p> <p>地道に PET ボトルの回収…外のゴミ箱回収箱に入れず持ち帰って洗って自治体等の回収に出す。くらしの中で小さなことから少しずつ取り組みたいです。</p>
26	<p>地域の海岸河川の清掃活動 ⇒実感するためにマイクロビーズを含む製品の販売中止</p> <p>生分解性プラスチックを含む製品の開発・販売</p> <p>地域自治体の廃プラスチックの処理方法の確認</p> <p>CO2 排出量削減計画のようにプラスチック使用量削減計画を作る</p>
27	<p>3R の推進を組合員に呼びかけます。同時にリサイクル活動も強化し、企業の社会貢献度向上を目指します。今後はリサイクル品目も増やし、取組みを強化します。</p>
28	<p>循環社会の大切さと必要性はわかっているつもりでしたが、今回のセミナーで早々に対応が必要と思いました。容器を作る側として土・水に戻る材料・完全リサイクルが可能なものを素材にできるような技術開発をしていくことが重要と重く感じました。</p>
29	<p>自分自身としては紙であってもストローは拒否など、生活の面からプラスチックの廃棄のことを考え直してどうするかを決めたい。そしてプラスチックに関する情報を集め勉強して、自分にできる方法で一般の人に知らせていきたい。</p> <p>プラスチックは私たちのくらしを良くするためにどんどん改良され 100 年以上の歴史がある。今後海洋汚染をさせない方向への改良はできないのか。といった話も伺いたい。</p>